



EIZOとHPが描く医用画像診断の未来 ～ 14年の“協業”が生んだ世界に誇るモニター ～

プロフェッショナルな ものづくりと医療分野参入

EIZOはモニターの製造販売を主軸とする企業である。1968年に石川県七尾市で創業、1980年代に自社ブランドを確立し、製品・サポートに対する顧客の高い信頼を勝ち得てきた。

同社がヘルスケア業界、特に医療機関で使われるモニター分野に参入するきっかけとなったのは、2000年代初頭の医療業界におけるデジタル化の浸透だという。それまでは、X線、CT、MRIなどの画像はフィルムなどを用いて撮影し、現像したフィルムを光源（シャークアステン）につけて診断していた。しかし、2000年代に入ると、DR（デジタルラジオグラフィ）など大規模なデジタル化の大変革があり、保険点数もついたことから一気にフィルムレス化が



「医療分野のデジタル化が医用モニター参入の契機となりました」と述べるEIZO企画部商品技術課の川本康昭氏

進展、モニターによる診断へと移行した。

EIZOは、以前から高品質なモニター製造技術を持っていたため、その技術をもって医療分野にも貢献したいという思いから、2002年に医用モニター「RadiForceシリーズ」の販売を開始、医療分野に本格的に参入した。

品質を支える両社の サポート体制と迅速な問題解決

EIZOは、製品の品質に加え、サポート体制を重視している点でも好評価を得ている。国内9か所のフィールドサポート拠点に加え、本社内にコールセンターと修理サービス拠点を配置し、万全の受け皿を整えている。市場から寄せられる製品への問い合わせや修理解析の情報は、同じく本社にある品質保証、開発、製造などの関連部門に迅速に共有されるため、的確な対応の立案・実施につながっている。このように、開発から生産、販売、サポートまでを自社で一貫して行う体制が、高品質な製品に加え、スピーディで信頼性の高いサポートの提供を可能にしている。

医用モニターについては経年変化に対するサポートも提供している。モニターは発光素子を含む工業製品であるため、時間の経過に伴う画質の変化は避けられない。そのため、モニター品質管理ガイドラインに基づいて定期的にモニターの測定を行い、正しく表示ができていのかどうかを検証



◀EIZO本社内に設置されたEIZO Tech Hub。広々としたスペースにはモニター実機が置かれ、様々な検証や評価を実施。日本HPとの互換性検証もここで行う。

EIZO株式会社

〒924-8566 石川県白山市下柏野町153番地
TEL:076-275-4121 WEB:<https://www.eizo.co.jp/>
設立:1968年3月6日

EIZO株式会社は、表示技術の中核に高品質な映像環境を提供するモニターメーカーである。「私たちはテクノロジーの可能性を追求し、映像を通じて豊かな未来社会を実現します」という理念のもと、医療分野では高精度・多階調表示と厳格な品質管理を追求した医用モニターを展開。画像診断や読影環境の質向上を支え、医療現場の信頼性と効率化に貢献している。

